



がんばれ高田 負けるな高田
できる できる できる!

【校訓】

自主・協力・創造

文責 校長 大串 久隆

12月10日、この日は、世界人権デーです。1948年に国連で、世界人権宣言が採択され、日本においても、12月4日から10日までを人権週間と設定して、人権について深く考える機会としています。高田中学校におきましても、様々な機会を通して、人権について考える機会をつくり、日々の生活の中で、人権意識を身に付けていきたいと考えています。今回の学校だよりは、11月・12月の学校行事を通じた人権学習を紹介します。

【人権意識は、正しい知識から】 性教育講話(全校生徒)

11月25日に、長崎県学校保健専門医派遣事業として、花みずきレディースクリニックの濱崎先生にお越しいただき、「思春期の心とからだについて」と題して、性教育講話を行っていただきました。

講話では、性について科学的で正確な知識とともに、男女の成長のしかたや生理現象の違い、そのためにどのような不安や悩みを抱えることがあるのかなどを丁寧に分かりやすく説明していただきました。その話を真剣な眼差しで聞く生徒たちの姿を見て、生徒たちは、正しい情報をきちんと知りたいのだと強く思いました。講話後の感想では、「先生が言われたように、『命を大切にすることは時間を大切にすること』だと実感した。」「周りの人を大切にするためにも、きちんとした知識を身に付けて、正しい行動ができるようにしたいと思った。」「相手のことを気遣える大人になりたい」など、自分の体や命のことだけでなく、周りの人たちのことにも気配りをしようとする意識が高まった講話でした。



家庭教育学級「身近な人権を考えよう」

12月7日に家庭教育学級として、長崎県県民生活環境部 人権・同和対策課の森山先生に「身近な人権を考えよう」と題して、講話を行っていただきました。

講話では、アクティビティを交えながら、私たちが、無意識のうちに持っている偏見の種や思い込みに気づかせていただくとともに、多様な性への理解についても、分かりやすくお話しいただきました。

講話では、私たちが持ってしまいがちなバイアス(偏見)について話がありました。アンコンシャスバイアス(無意識の偏見)とジェンダーバイアス(性的偏見)

ある日、息子と父親がドライブに行きました。その車が事故を起こし、父親は亡くなり、息子は重傷で病院に運ばれ、緊急手術が行われることになりました。病院では、急遽、外科部長によって手術が行われることになりました。手術を行う外科部長がその子の顔を見て、「イチロウ!、イチロウ! これは私の息子です」と言いました。

この話で、何かおかしいところがありますか?と問われて、私は、おかしい。と思いました。

父親は事故で死んだのに、なぜ病院に父親がいるの?……私は、まんまとひっかかってしまいました。

答えは、いくつか考えられます。①外科部長は母親だった。とか、②運転していたのは再婚後の父で、医師は再婚前の父だった。などです。

でも、私は、話を聞いた瞬間に、外科部長=男性 と思い込んでしまいました。これが、アンコンシャスバイアスであり、ジェンダーバイアスであるということです。近年、看護婦さんではなく看護師さん、保母さんではなく保育士さんなど業務を表す言葉もジェンダーを意識したものになっていますが、それでも、私たちは無意識にこれらの業種は主に女性が行う職種というイメージを強く持っているのではないのでしょうか。

正常性バイアスと同調性バイアス

自然災害や火事、事故など自分にとって何らかの被害が予想される状況にあっても、「自分は大丈夫」「今回は大丈夫」と過小評価するのが正常性バイアスです。また、「みんなと一緒にだから大丈夫」「みんな逃げてないから、自分も逃げなくていい」など、周りの状況に自分も合わせることで安心しようとするのが同調性バイアスです。



これは、緊急事態の時に避難が遅れる原因になるということで注意喚起されるバイアスですが、「人権」を侵害している状況に出くわしたとき、それを見過ごしたり、自分をごまかしたりするときにも、このバイアスを働かせてしまうことがあるということです。

森山先生は、この4つのバイアスを解消するためには、「習慣」をつくるのが大切と強調されました。バイアスは、反射的に出てくるものなので、それを変えるには、自らの意志で意識的に変え、自らの行動や信念として習慣化していくのが大切なのだと言われました。

情報過密社会である現代は、様々な情報がいろんな人の意見とともに飛び交います。私たちは、その情報をより良い社会づくりやより良い生活に生かしていくために、正しく把握し、適切に判断していかなければなりません。その実践が、生徒たちの正しい情報活用力にもつながっていくのではないのでしょうか。

保護者の皆さん、12月7日はとても寒い研修会でしたが、一緒に研修を受けてくださり、ありがとうございました。

【敬意(リスペクト)と感謝】

高田中学校人権学習 パラリンピアンからのメッセージ

12月1日に人権学習として、2010年バンクーバーパラリンピックアイスレジャホッケーの銀メダリスト馬島 誠さんに、オンライン講話をしていただきました。生徒たちと意見交換も多に行われ、とても楽しく、分かりやすい講話でした。

大学生のときの事故で、車いす生活となった真島さんが、アスリートになるまでに悩んだことや様々な体験をお話いただきました。私たちが良く使う「頑張る」を「顔晴れやかな、顔晴る」と置きかえて取り組んだこと、「感謝の気持ち」を大切にしたこと、そして、人が喜ぶことが自分を支える力になったという「他喜力」という言葉を教えていただきました。真島さんは、自身を支えてくれたのは親友であり、一緒に頑張ってくれた仲間たちだと話されました。生徒たちは、馬島さんの生き方や考え方を聞き、人生を切り開いていくうえで大切なことを学ぶとともに、一人の人間として尊敬の念を強く抱いて話を聞いていました。

人の心は見えません。しかし、その人の言葉を聞き内面を知ると、その人の頑張っていることや大切にしていることが見えてきます。人権とは、お互いがお互いのことを理解し合い、敬意をもってつながり、そして支え合うことだと、強く感じた学習会でした。



高田中学校人権集会

12月8日に、人権集会を行いました。そこでは、生徒の人権作文の発表と人権標語の優秀作品の発表が行われました。人権週間だけでなく、様々な授業や専門部活動、生徒会活動を通して、人権について考え、学び、実践力をつけていると感じています。

人権実行委員が高田中学校人権宣言を力強く発表し、生徒全員で採択しました。



令和3年度 高田中学校 人権宣言文

この地球に生まれた私たち一人一人は、かけがえのない存在です。どんな人も「幸せに生きる権利」を持っています。また同時に、私たちには一人一人の「幸せに生きる権利」を守る義務もあります。しかし、悲しいことに、私たちの周りでは「幸せに生きる権利」を無視した「差別」や「偏見」が根強くはびこっています。そして、今この瞬間もどこかで、傷つき、涙を流している人がいるということを、私たちは見過ごしてはなりません。

あなたは、今、気持ちよく学校生活を送れていますか。そして、あなたの周りには、気持ちよく学校生活を送れていると思いますか。私たちは、相手の立場に立ってその人の考えや気持ちに共感できるような想像力や理解力を身に付ける必要があります。私たちは、共に同じ時間を過ごす仲間です。高田中学校の生徒みんなが、笑顔で安心できる学校を創っていくために、私たちは次の4つのことをここに宣言します。

- 一、差別やいじめを許さない強い心もちます。
- 一、仲間の変化に気づき、声をかける勇気もちます。
- 一、一人ひとりの個性を尊重し、お互いを認め合います。
- 一、思いやりのある言葉があふれる、笑顔輝く学校を創ります。

令和3年12月8日 高田中学校 人権学習委員会